

転生ゴブリン

前世で童貞のまま死んだ俺は
チート催眠で自分より
強くて大きい女を犯しまくる

～女狩人調教日誌 前編～

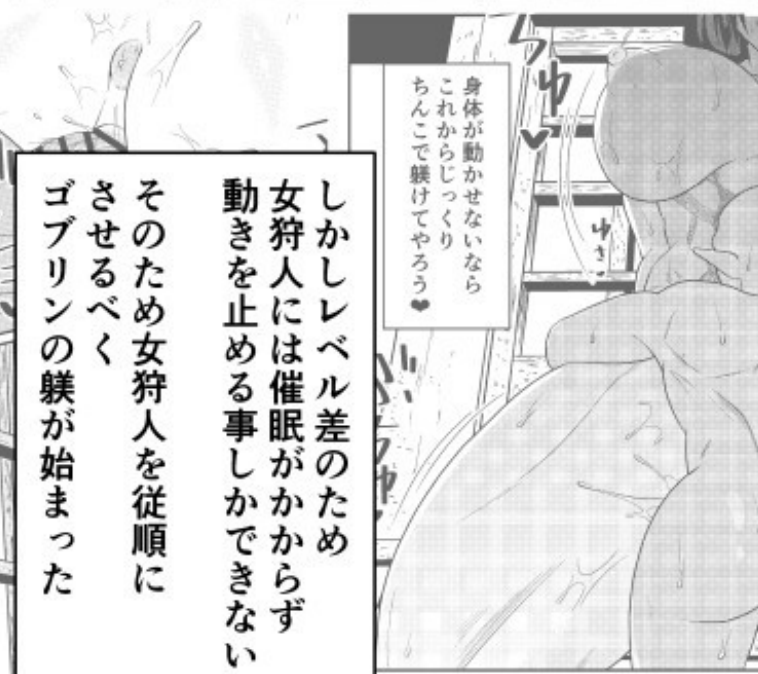
すると
突如私の首が強
締め上げられた

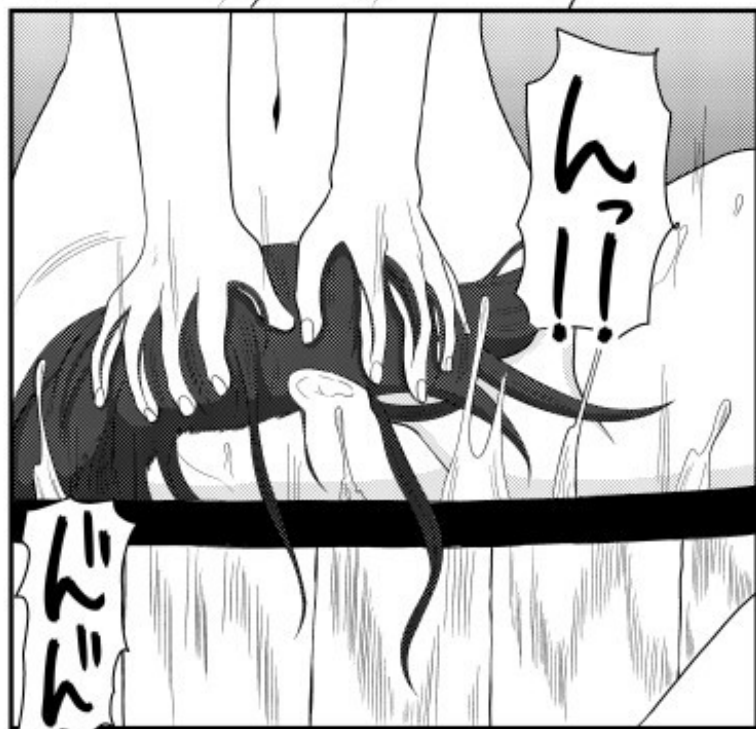
そして苦しうに
しているベットの腹を
思い切り殴りつける

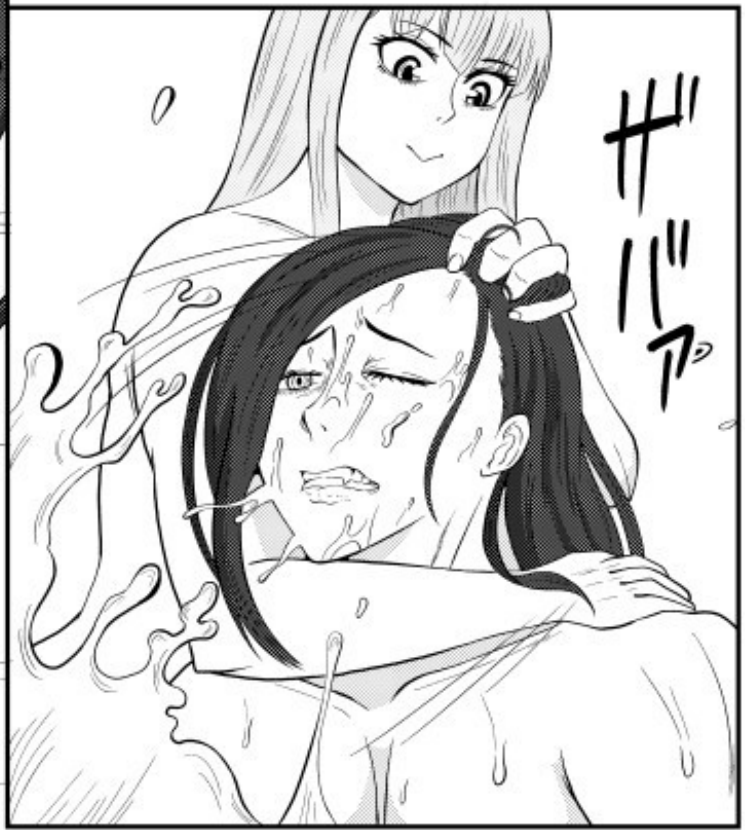
本編 36P











こいつらは
私の心を徹底的に
折るために！

ロ
ミ
ャ
ー！！

やだー

様々な方法で
恥辱と苦痛！

めっちゃめっちゃ
下品にイキ潮
ふいてる！

そして快楽を
与えてくれる

ヒ
ュ
ル
ル
ル！！

私は
絶対に……
負けない！！

だが私は
この程度の責め苦で
音を上げたりしない

どれほど無様な
生き恥をさらし
強烈な快感に
身が悶えようと

あゝ
今度は
良い感じ

転生 ゴブリン

前世で童貞のまま死んだ俺は
チート催眠で自分より
強くて大きい女を犯しまくる
～女狩人調教日誌 前編～

今回あんまり出番ない。



最初の調教で
私は『ワン』と鳴いて
お手をするよう
命じられた

まるで犬を
躡けるような命令だ
私は頑として
それを拒絶すると



痛みよりも
怒りが
私を支配する



容赦なく鞭で
打ち据えられた

そのせいで
調教の時間が
より長くなった





解放された時には
私の尻は酷く
腫れあがっていた

ハア

おっほっほ

ハア

スリッ

スリッ

その責め苦は
私がワンと鳴くまで
終わる事はなく



尻を上げ
鞭で打たれた痛みを
鎮めながら

私はゴブリンへの
怒りをさらに
燃やした



んぎん!!
はーしめます

おまんこ
ちゃんと
しめますから...

んぎん!!



次に私は
ゴブリンの
男根をしゃぶるよう
命令された

『人の物でも嫌なのに
誰がそんなものを』と思ったが
どうやらこいつはわざわざ
私の意志でしゃぶらせたいらしい



その証拠に
私にかけられた
謎の術が解けていた

身体が自由になった私は
喜び勇んで奴の首を
へし折ろうとする

しかし奴の体に
私の攻撃が触れることは
なかった



どうやら私が
危害を加えようすると
直ちに術が発動する
らしい



そうなるとう
身動きができず
折檻を待つだけの
人形になる



ド
ボ
ッ
ッ
ッ

その事にやうと
気づいたのはー



散々痛めつけられ
意識を失おうとしている
最中だった

ヒクッ
ヒクッ

ド
ス
ッ
ッ
ッ

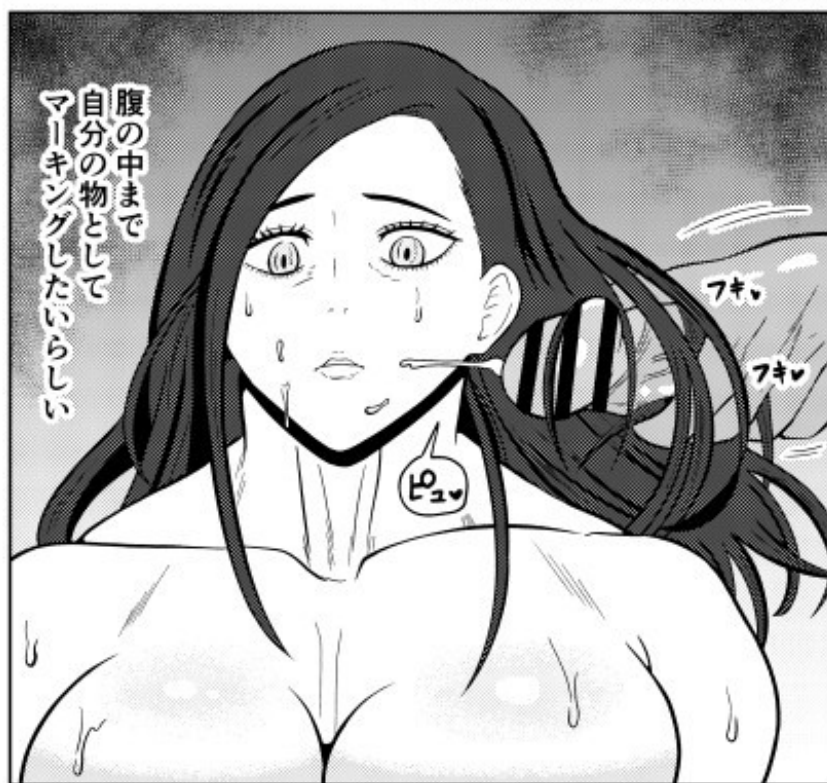


ヒクッ

カッ

ド
ス

ド
ス
ッ



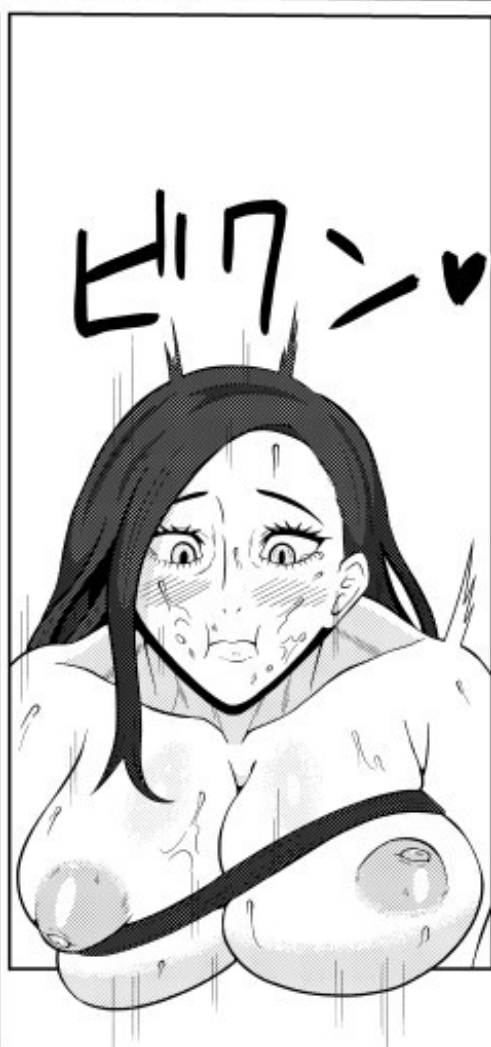
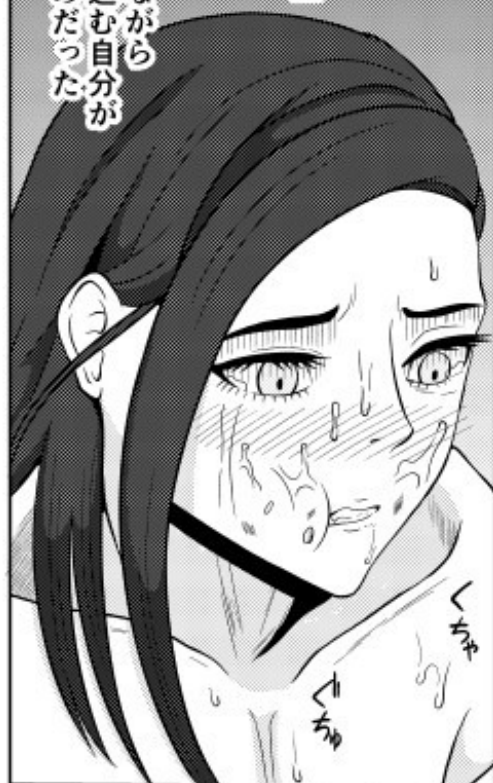


私は自分から
精液で汚れた飯を
食べていた

『精液だとして毒ではないから』

『生きるためには
食わなければ
いけないのだから』

そう言い訳しながら
腕に顔を突っ込む自分が
どこまでも惨めだった







いつもの様に
性器を弄ばれていると
いつもと違う事に気づく

んあ

グチュッ

グチュッ

あッ

グチュッ

馬鹿馬鹿しい...

そんな事せずとも
散々膣壁や陰核で
泣かせてきただろうに

イッてる!!

イッてる
のにイッ



ドチュ!!

責めが苛烈というか
執拗に子宮口を
責め立てるのだ

グチュッ!!

どうやら私が子宮口で
絶頂しない事が
不満らしい

ドチュ!!

グチュッ

結局奴は
朝から晩まで私の性器を
乱暴に突きまくり

ああ!!

ビクッ

ビクン

ああああ!!

ビク

私は何度も何度も
無様に気をやってしまった

だが奴は私が上手く子宮口で
絶頂出来なかったと
判断したようでー

ゴブリンは不機嫌そうに
『お仕置き』を
していった...

『お仕置き』の内容は...

いや...やめておこう
あんな女をコケにする様な
所業など...



冒険者の頃の夢だ

私には度々一緒に仕事をし
尊敬している先輩がいた

ある日その先輩が
冒険者を辞めると
言い出した



その日の夜
私は夢を見た



私より強いのに
辞めると言う事が
理解できない反面――

何故かとても
羨ましいと感じた



子供の頃からの夢である
魔道具の店を開くのだと



誰しも持って生まれた
資質や才能がある

それが最も輝く場所で
努力する事こそが
人としての生き方だ



私にとっての生き方とは
適材適所だ

だが彼女は違う

彼女は自分の
叶えたい夢のために
生きるのだ

私も…

私もそんな風に
生きてみたい…

『君の本当に
やりたい事は何?』





私は一層大きな
喘ぎ声と共に
膣を強く締め上げた

ハア

ハア

とうとう下賤なゴブリンは
私の子宮口まで
征服してみせたのだ



もっと
強く!!

あんなあ!!
それ好き!!



何でも良いから
早く終わって欲しいからと

あー!!
そこだ!!

私が女を悦ばせる
手解きをしたからだ

そして今までで
一番大量の精子を
流し込まれる

ビクッ

ど
ぶ
ど

まるで私という女の
攻略した証を
残すように...

ビクッ

かッ

かッ

びゅ

びゅ

びゅ

かッ

かッ



あんな夢
見なきゃ良かった...



上手く絶頂できた
ご褒美に奴は頭を撫でてきた

本当に犬になった気分...

なで

なで

ゴブリンの性欲と
嗜虐心を一心に
受け止めている

ハア

その現実と
美しい夢の乖離が
大きすぎて

ハア

惨めさが一層際立ち
私は静かに涙を流した



転生 ゴブリン

前世で童貞のまま死んだ俺は
チート催眠で自分より
強くて大きい女を犯しまくる
～女狩人調教日誌 前編～

ゴブリン視点



異世界に来てから
やつの事でー

家らしい家に
住むことが
出来るようになった



この家の元主人は
現在俺のペットとして
飼ってやっている



無理矢理首輪をつける様な
形になってしまったが

こちらも沢山
気持ち良くさせてあげてるので
文句は言わせない



さて早速驂の方を
進めているが

とにかく強情で気が荒いため
これが中々上手くいかない
(ペットが立って歩くなど
何度も言っているのに...)



だが高いプライドは
女にとって一番
不要なものであり

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

男に奉仕する事が生き甲斐の
女にとって不幸の元なのだ

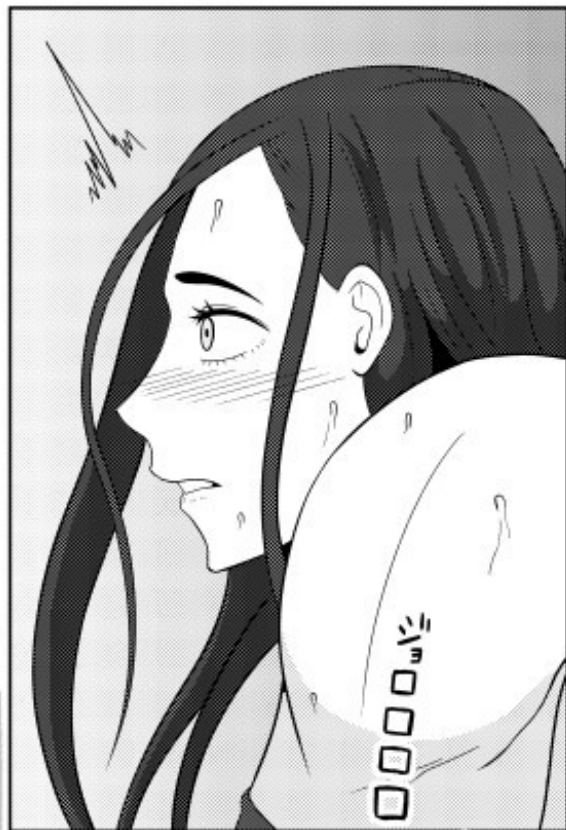
だから彼女のためにも
心を鬼にして
調教しなければいけない

だが最近こういった
殴る蹴るのお仕置きに
慣れてる節がある…

違う方法も考えなきゃ
だなあ…









愛の鞭だと思って
理解してもらえない



頑張って訓練に
ついてきてくれるペットに
この仕打ちには
あんまりだと思ったが



悔しそうなペットの
慟哭を聞きながらー

明日こそはという
決心で胸がいつぱいになった

ううあああ
あああ!!

ううう
ううう
ううう

か
ホ
シ
ホ



嫉は中々難しいが
上手くいっている物もある

グチャ
グチャ

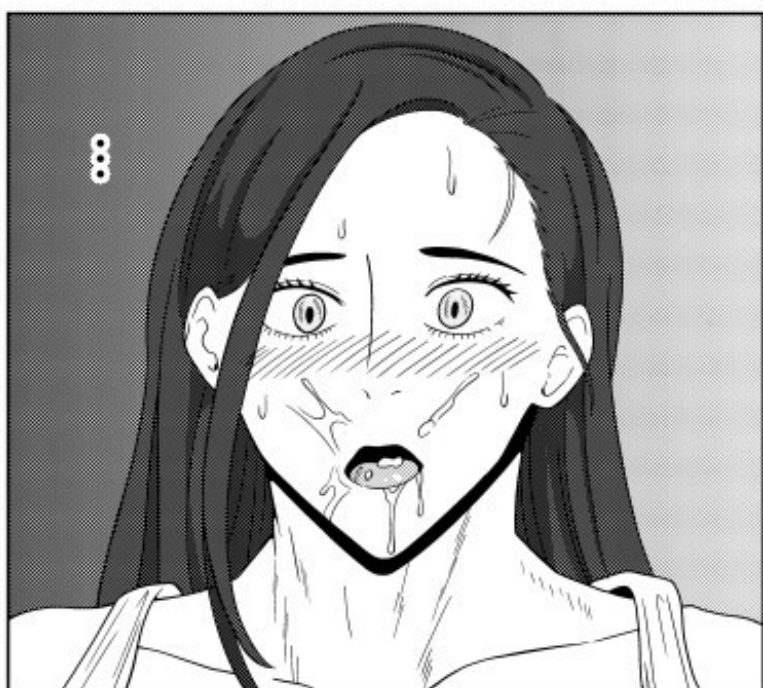


あれほど嫌がっていた
ザ・メー入りの飯を
最近自分から
沢山食べるようになった

それは餌の嫉だ

グチャ





今日も子宮口でイク訓練の
続きをした

だがどういう
心境の変化だろう

ド
チュ

あー！
そこ……だ！！

ペットが訓練に
大変乗り気だった
フリ
チュ

グ
ホ

どうすれば子宮口で
イけるのかを
ペット自らが
俺に教えてくれている

もっと
強く！！

ズ
ホッ

ズ
ホッ

フリ
チュン

きつと俺の愛情が
伝わったのだろう……

コリ

グ
グ

俺はペットのやる気に応え
彼女の指南通りに
子宮口を攻め抜いた

コリ

グ
リ

あん、ああ！！
それ好き！

するとペットの腰が
大きく跳ね上がり
目に見えてイクのが
分かった

とっ
ぷい

開発が上手くいった
達成感

ペットと心が通った
嬉しさ

それらが相まって
いつもの何倍もの
ザーメンを吐き出してしまおう



あッ

ご褒美に頭を撫でてやる
彼女は恥ずかしかったのか
黙って向こうを眺めながら
俺に頭を撫でさせた



最近ペットとの絆が深まっていると感じたので――

前回失敗したお手を
させようとしたが
ダメだった・・・

まだまだ厳しくする
必要があるらしい

バキ!

へ
キ
!!

お仕置きとして
水を限界まで飲ませた

んんん!!
んぐ!!

三下五

今までには無いタイプの
 蝶であつた事と
 腹が内側から水で圧迫される
 苦痛にペットの余裕はすぐ消える

ゴホオ!!!

そして苦しそうに
しているペットの腹を
思い切り殴りつける

パン！！

どはぁっ

ドド
ゴッ！！

すると先をつまんだ
ホースの様に
ペットの口から
水が噴き出す

おえええ
けほお！！！！



あゝ

あゝ

あゝ

ちよつとお仕置きが
苛烈過ぎたかと思ひ
ご褒美として
軽くハメてやる

すると何故か
殊更激しく
膣をヒクつかせた

ズチュ

ガチュ

ヌチャ

バチュ

どうやらGスポットを
決られるのが好ましい
今度から子宮口と合わせて
ご褒美の一つに加えよう